

CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	NEXロジスティクスセンター I	階数	地上2階、地下0階	
建設地	熊本県菊池郡大津町大字室字桜山	構造	S造	
用途地域等	(白地地域)	平均居住人員	20 人	
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2024年5月 予定	評価の実施日	2023年9月7日	
敷地面積	8,598 m ²	作成者	和久田建設(株) 中尾	
建築面積	3,977 m ²	確認日	2023年9月7日	
延床面積	7,671 m ²	確認者	和久田建設(株) 中尾	



2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

排出率: #DIV/0!

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点: **64**

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

評価点

60.0

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

47.5

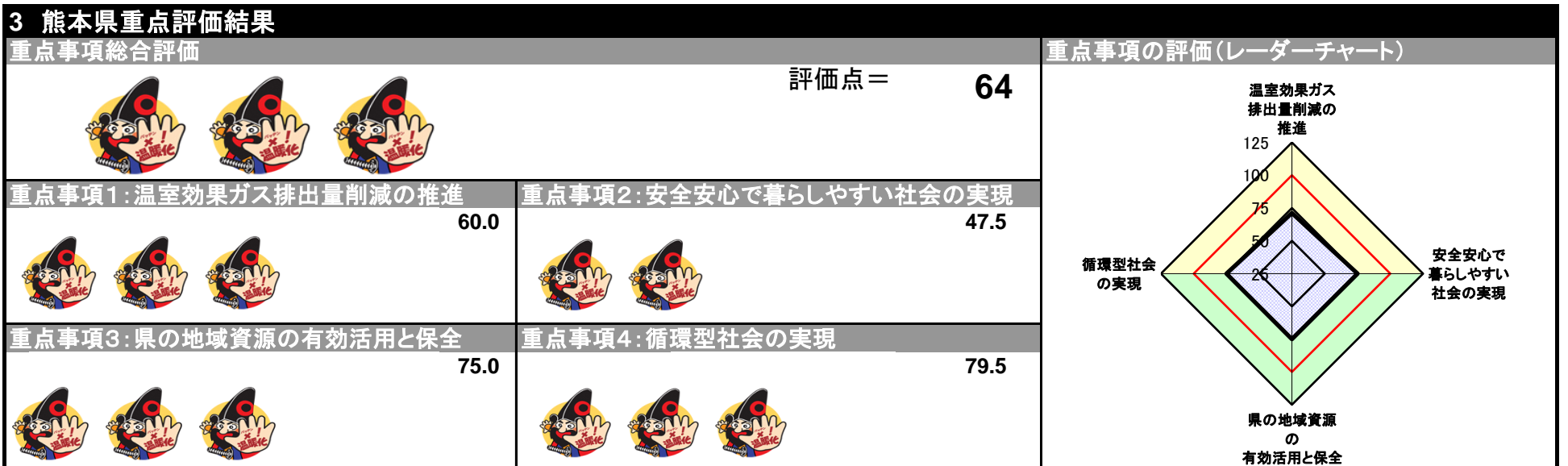
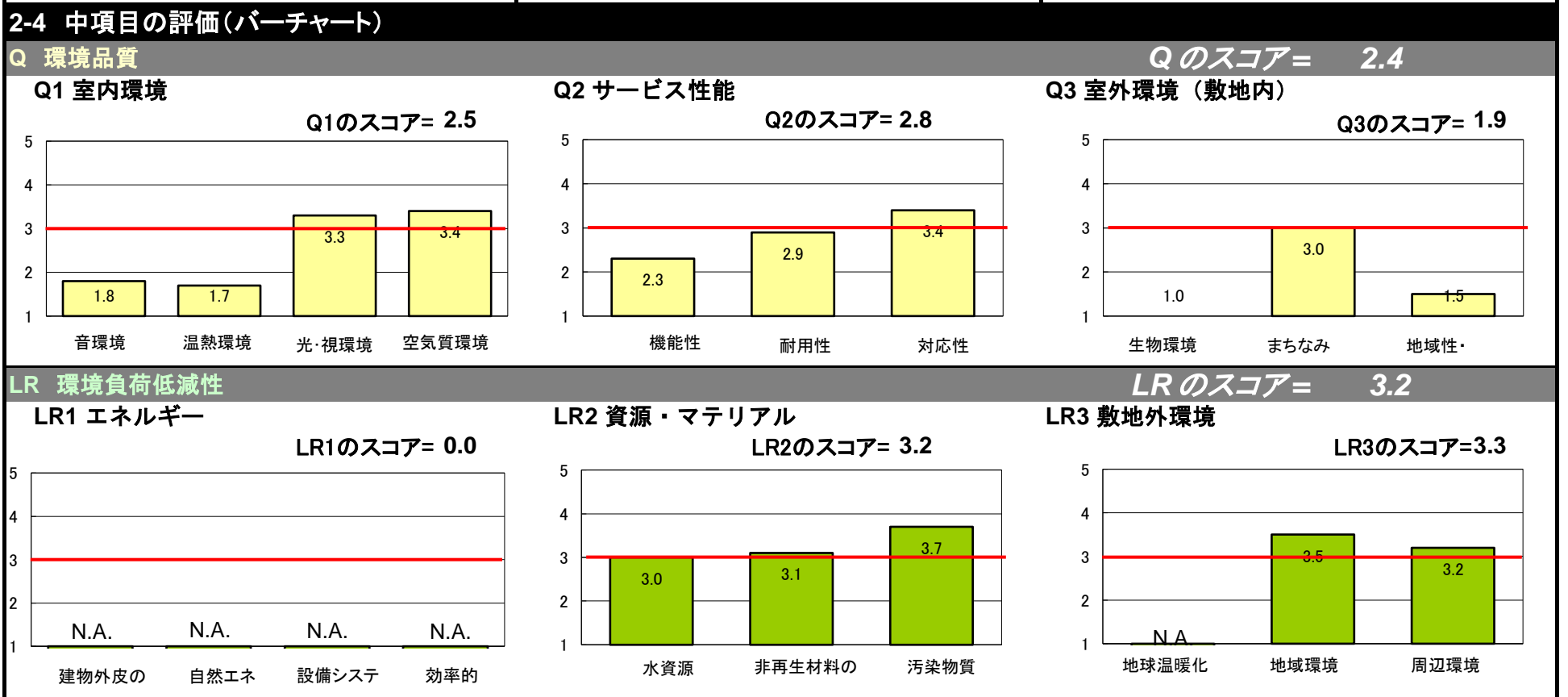
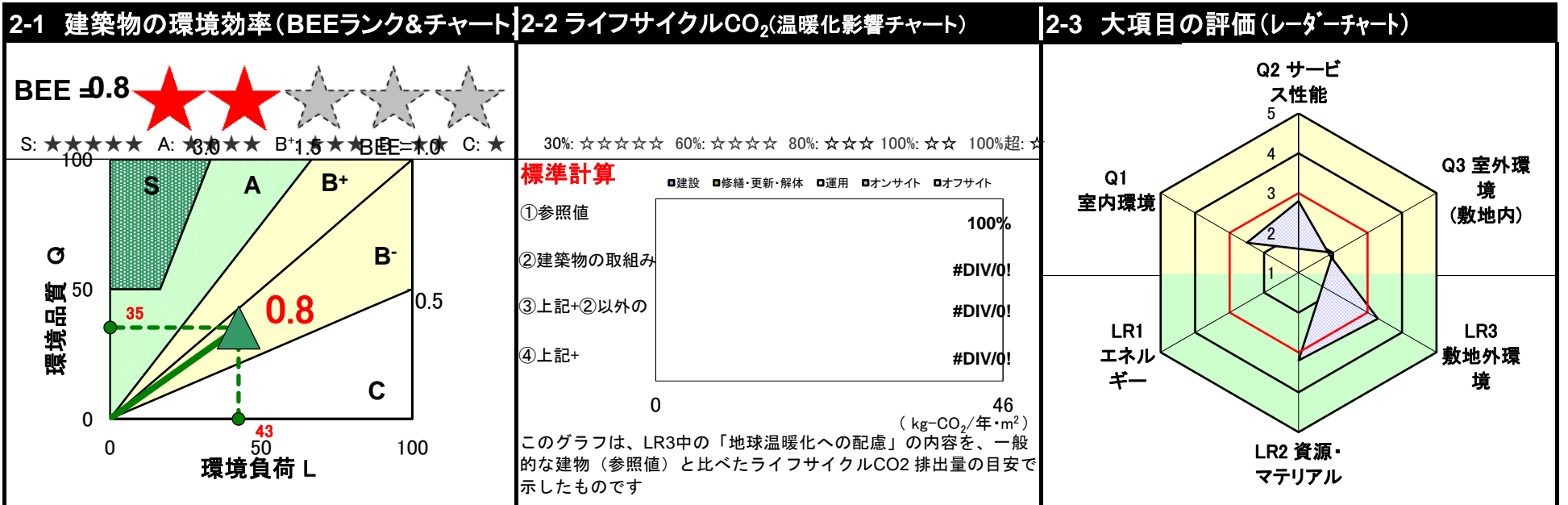
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

75.0

【重点事項4】 循環型社会の実現

79.5

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	NEXロジスティクスセンター I	階数	地上2階、地下0階
建設地	熊本県菊池郡大津町大字室字桜山	構造	S造
用途地域等	(白地地域)	平均居住人員	20人
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年5月 予定	評価の実施日	2023年9月7日
敷地面積	8,598 m ²	作成者	和久田建設(株) 中尾
建築面積	3,977 m ²	確認日	2023年9月7日
延床面積	7,671 m ²	確認者	和久田建設(株) 中尾



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.4
Q1 室内環境							0.30	-	-	2.5
1 音環境						1.8	0.15	-	-	1.8
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音						1.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						1.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能						1.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	
1.3 吸音						1.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						1.7	0.35	-	-	1.7
2.1 室温制御						2.5	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能						1.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.3	0.25	-	-	3.3
3.1 昼光利用						4.2	0.30	-	-	
1 昼光率		昼光率:3.37%				5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御						3.0	1.00	-	-	
3.3 照度						3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.4	0.25	-	-	3.4
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆使用				4.0	1.00	-	-	
4.2 換気						4.0	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		自然換気性能0.076(1/15以上)				5.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		他排気口との距離7.5m				4.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理						1.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						1.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.8
1 機能性						2.3	0.40	-	-	2.3
1.1 機能性・使いやすさ						1.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応						1.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画						1.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		天井高2.7m・窓設置				4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上				4.0	0.33	-	-	
3 内装計画						1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水、排水:B 冷媒:C				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高平均:6.27m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	比率:0.045	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			2.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	1.9
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30	-	-	1.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							3.2
LR1 エネルギー			-	-	-	-	-
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm]: -	-	-	-	-	-
4 効率的運用			-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.50	-	-	3.2
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		S造:躯体と仕上げ材が容易に分別可能	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材無し	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.50	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			3.5	0.50	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器使用なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.50	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外照明及び広告塔照明は光害対策ガイドラインの過半を満足	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

建物名称 NEXロジスティクスセンター I

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		64
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				60	0.40	24.00
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.20			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.20			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.20			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	0.0	0.00			
LR1-3	設備システムの高効率化	0.0	0.00			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.20			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.20			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				47.5	0.20	9.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	1.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	3.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				79.5	0.20	15.90
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④)の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

印刷:モノクロ
設定済み

- ・適宜、箇条書き等で記入してください。
- ・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	LED照明の使用で、一次エネルギー消費量を低減	
Q1 室内環境	F☆☆☆☆建材を採用	
Q2 サービス性能	階高を十分に確保し、設備機器等の更新に備える。	
Q3 室外環境 (敷地内)	敷地内に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。	
LR1 エネルギー	LED照明を使用する。	
LR2 資源・マテリアル	断熱材はノンフロン品とする。	
LR3 敷地外環境	出入口附近での車両の軌跡検討を行い、周辺の交通負荷軽減に配慮した。	
その他		